

## SCHOOL DATA

〒273-0121 鎌ヶ谷市初富110  
 TEL 047-443-6621 FAX 047-443-6658  
 ■児童数/618人 ■教職員数/27人 ■周辺環境/畑



【鎌ヶ谷市立西部小学校ビオトープ工事の様子】



### ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/50㎡
- 設置者/上総掘りでビオトープ西部地区プロジェクト実行委員会
- 設置した年/2009年
- 主な管理者/学校、市教育委員会、地域保存会



### 【今後生息・生育させたい生物】

メダカ、ヤゴ、モノアラガイ、タニシ、ドジョウ、ホタル、タナゴ、大賀ハス、水草、アヤメ、古代米

### 【コンセプト】

本校は周囲を梨畑に囲まれてはいるが、山や川もなく、動植物の豊かな環境には恵まれてはいえない。特に水辺の生き物を観察する場が極めて少ない状況にある。さらに稲田を知らない児童も多く、この地にビオトープができることは児童や地域にとっても極めて大きい成果が期待できるものである。今回は千葉県が世界に誇る国の重要無形民俗文化財の上総掘り技法で井戸を掘り、手こぎポンプで水を汲み上げ、滝として流し、メダカ池を循環させ、その水が稲田を流れ、浸透枳に入り、また地下水となりそれを汲み上げる設計とした。このプロジェクトは、総勢2000名の参加者を目標に、三位一体（学校、家庭、地域）の「協働」により取り組んだものであり、児童の自然環境学習での活用はもちろん、防災にも対応でき、学校に地域のオアシスを創出していききたい。また、参加者の名盤も作製し、未永く学校の宝、地域のオアシスとして、地域で連携しながら維持していきたい。

### 【ビオトープの構成】



【掘り始め式】



【児童による上総掘り体験】



【ビオトープ完成】

### ビオトープの活用方法

- 児童・生徒
  - ・自然環境学習として多様な活用が想定される。
  - ・憩いの場として学級並びに学年活動に活用できる。
- 地域住民
  - ・豊かな教育環境の場、多様な交流の場としての活用が期待できる。
  - ・地域行事での活用ができる。

### ビオトープの効果

- 児童への効果
  - ・水辺の動植物の観察や触れ合いの場となり、興味関心を刺激する場となる。
  - ・自らの労働を通して関わったことにより、その仕組みを知り、この施設を未永く大切にする意識が育つ。
  - ・生物環境の保護意識の向上などにもつながる。
- 教職員への効果
  - ・理科教育をはじめ他教科や幅広い児童活動にも活用する意欲が高まる。
  - ・共同参画で作り上げることでより貴重な体験の場となる。
- 保護者・地域住民への効果
  - ・共同作業を通してその維持・保管意識が定着するとともに、学校を中心とした地域ネットワーク、人的ネットワークのつながりが強まり、望ましい教育環境が創出される。
- その他、期待される効果
  - ・生態系への意識向上やその維持・継続の困難さに直面することにより、自然の偉大さについて気づく機会となる。

### 保護者、地域との連携

- 保護者
  - ・今回のプロジェクトの代表をPTA会長になって頂いたことにより、その共同参画意識は極めて高いものになるとともに主体的に関わる機会が増えることが期待される。
- 自治会、町会
  - ・2年半の準備期間並びに説明を重ねてきたことにより、各連合自治会長も実行委員として参画していただき、上総掘りの体験希望者は各地区自治会長、班長がとりまとめて、積極的な関わりを示していただいた。
- その他
  - ・実行委員会と作業部会の組織（参画する中心メンバー：地域の造園家、大工、水道関係、上総掘り経験者、自治会役員）を軸に、児童の体験学習、親子での体験、自治会員の参加を促し、一人でも多くの方に参画いただけることにより今後の守人となり維持・保全につながる。

- ・市川動植物園や県環境アドバイザーに指導を得ることができた。
- ・国土緑化推進機構、日野自動車グリーンファンドなどの助成金を受けた。

### 整備・活用・管理等の課題

- ・データ収集はしてあるが、上総掘り技法で何処に何メートル掘り進めれば水が出るか。
- ・水辺の動物や植物を遺伝子などに配慮しながら、どこから入手するか。
- ・子どもが関われる部分と教師や教育委員会等で管理する内容の仕分け。

### これまでの経過と今後の展望

- ・9月末：上総掘り用竹ヒゴづくり、ヒゴ車製作後、櫓の組み上げ。
- ・10～11月：上総掘り技法による井戸の掘削作業。（児童、保護者、自治会員ほか総勢2000名が参加）
- ・12月：ビオトープ建設。年内大枠完成。
- ・1月：完成式を挙げる。
- その後、景観や学習利用の可能性を模索しながら、より有益な活用を図っていききたい。また、三位一体の連携により維持・保全されるものとしていきたい。

### 整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・何のために取り組むのかなどの趣旨を、関係者に理解を得るに至るまでの忍耐と努力と工夫が必要であった。（資金・材料の調達、組織作りや市教育委員会の許可等）
- ・おおよそ1年間の水の汲み出しにより、地中の水路の確保を図っていききたい。
- ・井戸やビオトープの仕組み、その維持についての基礎知識や技術の伝承を継続していききたい。
- ・動植物の管理や維持・保全を簡素にし、その維持・保全の基礎知識や技術の伝承していききたい。
- ・自治会や保護者との連携・保持の工夫を今後も続けたい。



【保護者、地域の方々による作業】